

ジョッキーベイビーズ

ジョッキーベイビーズ出場を目指して全国各地で激しい予選が繰り広げられました。その模様をレポートします。

8/23 日 JRA福島競馬場
「東北・新潟地区代表決定戦」

東北・新潟 地区

今年は過去最多となる24名がエントリー。技術審査(部班運動)及び予選(ジムカーナ)により選抜された4名がダート直線250mの代表決定戦へ進出しました。代表決定戦は、暑熱対策のため夕暮れ時間帯に行われましたが、多くのお客様から声援を送っていただきました。レースでは、佐々木鉄大さん(中学1年生)が好スタートから先頭に立つと、そのまま後続を寄せつけず優勝。佐々木さんは、昨年、一昨年と同地区予選で敗退し悔しい思いをしましたが、中学1年生となる最後の挑戦で、見事にリベンジを果たすことができました。

7/26 日 JRA日高育成牧場
「北海道地区代表決定戦」

北海道 地区

今年は5人馬がエントリー。北海道地区予選としては、3年ぶりの好天に恵まれ、また隣接する広場で祭り(うらかわ馬フェスタ)が行われ、数多くのお客様が観戦するなかでレースが行われました。そのなかで優勝したの、ロン号に騎乗した笠松浩さん(小学6年生)。好スタートから先頭に立つと、最後まで集中力を切らすことなく、後続に2馬身の差を付けて見事に優勝。笠松さんは、今年で3回目の挑戦となり、昨年は決定戦で2着、一昨年は決定戦で4着と悔しい思いをしましたが、そのリベンジを見事に果たすことができました。

8/6 木 JRA競馬学校
「関東地区代表決定戦」

関東 地区

今年は馬事公苑でアジア大会馬術競技が開催される関係で、関東地区予選は3年ぶりに競馬学校で開催されました。過去最多となる総勢26名がエントリー。まず、予選となる騎乗技術審査を行い、代表決定戦に出場する5名を選出し、代表決定戦の上位2名を関東地区代表として選出します。代表決定戦はダート直線300mで行われ、見事なスタートから馬の邪魔にならない騎乗を心掛けた若崎優馬さん(中学1年生)が逃げ切って優勝。2着には、道中3番手を追走していた内山優さん(中学1年生)が大外から伸びを見せ、最後の1枠を掴み取りました。

6/21 日 JRA中京競馬場
「中部地区代表決定戦」

中部 地区

今年は9名がエントリー。当日は晴天に恵まれた絶好のコンディションのなか、騎乗技術審査で選出された5名による代表決定戦が行われました。代表決定戦では、山中心夏さん(中学1年生)と愛桜号が好スタートから後続を引き離す展開。レース終盤、脚色が落ち外から成田晴祐さん(小学6年生)とちくわ号が追い込んできましたが、リードを守り切り見事に山中心さんが全国大会への切符を手に入れました。山中心さんは、「予選で戦った子たちの思いを乗せて決勝大会でも全力で走り抜きます!」と力強いメッセージを残してくれました。

7/5 日 三木ホースランドパーク
「みつきいポニーレース」

関西 地区

今年は過去最多となる15人馬がエントリー。予選4レースを行い、各レースの上位1名(計4名)による決勝で代表を決定しました。関西地区は、スタート直後にコーナーがあるテクニカルで難しいコースとなっており、さらに降雨の影響で不良馬場というタフなコンディションでのレースとなりました。そのなかで優勝したのは、サクラ号に騎乗した久徳琉斗さん(中学1年生)。決勝では、2番手のスタートになりましたが、スタート直後のコーナーでもの凄い差し脚を見せ、先頭の馬をかわすと後続を寄せつけず、見事全国大会出場を決めました。

6/7 日 JRA宮崎育成牧場
「九州地区代表決定戦」

九州 地区

今年は6人馬がエントリー。前日夜から当日早朝にかけての降雨の影響で馬場状態は不良馬場。レース時は雨は止んだものの強風が吹き、人馬にとって厳しい条件での開催となりました。予選は2レース行われ、各レースの上位2名(計4名)による代表決定戦は、残念ながら1位・2位入線馬がフライング失格となりました。こうしたなか、ジョッキーベイビーズ初出走となるアル8号と地元宮崎育成牧場乗馬スポーツ少年団の後藤杏奈さん(中学1年生)が3番手追走から最後まで諦めることなくゴールを目指し、見事全国大会出場を決めました。

6/28 日 中城公園
「沖縄地区代表選考会」

沖縄 地区

今年は7名がエントリー。当日は台風の影響もなく、天候も回復し無事に開催することができました。代表選考会はレース形式ではなく、3名の審査員が、「姿勢」、「扶助操作」、「バランス・リズム」の3項目を部班及び直線走行において審査しました。その結果、乗馬歴の1番短い上間裕太さん(中学1年生)が沖縄地区代表に選出されました。岡部幸雄元騎手が開催したイベントがきっかけで、騎手を目指すことを決意した上間さん。「将来の夢は騎手になること。東京競馬場で走れることが何よりの楽しみ」と意気込みを語ってくれました。



スタートの方法 (カウントダウン方式)



★口取り(引き手)はJRA職員が行います。

★危険防止のためムチは持ちません。

※ポニーはゲートの練習をしていません。制止させ一斉に引き手を放すやり方では、馬がよれる可能性が高まり危険なため、上記スタート方法を採用しています。

※東北・新潟地区、関東地区、中部地区の技術審査は主に「部班(集団で整列して騎乗し号令により動きを変える運動)」および「ジムカーナ(指定経路を走行するタイムレース)」が行われました。
※各予選は貸馬方式(予選主催者が馬匹を用意する)【東北・新潟、関東、中部の3地区】と自馬参加方式(馬匹も参加者が用意する)【貸馬方式以外4地区】とに分かれています。
※各予選の様子はジョッキーベイビーズ公式ホームページにて視聴することができます。

過去の
ジョッキーベイビーズ優勝者

★第1回(2009年)★
木村拓己さん(北海道)

★第2回(2010年)★
渡邊亮介さん(関東)

★第3回(2011年)★
石井李佳さん(関東)

★第4回(2012年)★
小林勝太さん(長野)

★第5回(2013年)★
斎藤 新さん(関東)

★第6回(2014年)★
角田大和さん(関西)

★第7回(2015年)★
大池峻馬さん(北海道)

★第8回(2016年)★
上薄龍旺さん(九州)

★第9回(2017年)★
加藤雄真さん(東北・新潟)

★第10回(2018年)★
木村曉琉さん(長野)

★第11回(2019年)★
佐野遥久さん(長野)

★第12回(2022年)★
松浦太志さん(東北・新潟)

★第13回(2023年)★
川田純煌さん(東海)

★第14回(2024年)★
梅澤伶士さん(東北・新潟)

★第15回(2025年)★
八嶋駿吏さん(北海道)

注目の決勝レースは、いよいよ10月11日(日)、
東京競馬場で行われます。お楽しみに!!

※天候その他の理由により、イベントを中止または変更する場合がございます。予めご了承ください。

★ジョッキーベイビーズ公式ホームページ

ジョッキーベイビーズ

検索

